

第4回新鋭俳句賞

準賞

「待つたなし」

菅 敦

待つたなし

晩秋や風の著けき人造湖

緬羊の群れ秋霖とともにあり

完熟を迎へたる街黄葉どき

己が身を栗鼠に与ふるべく木の实

珈琲の香氣芬芬鶉のこゑ

ふところのユーロ・ポンドや冬に入る

硬水のボトル落葉へ倒れたり

聖堂は声を灯して冬あたたか

パズルめく壁の落書き神無月

乗継ぎのホーム冴待つたなし

通訳の必要のなき寒さかな

老紳士マスクのわれを疫病か^{えやみ}と

短日や地上を地下を人の波

息白しボデイチエツクの荒々し

軍艦と肩を並ぶる浮寝鳥

冬ざれや風の加勢を拒む木々

潮の引く入江の眺め冬館

絨毯の染み灰色の脳細胞

冬霧を往く砂利道の音頼み

霜夜はや円形広場から塔へ

刺青とピアス焚火の脇を過ぐ

城の旗ひときは高き冬の空

白鳥と日差を分かち合ふ水面

枯芝に糞^{まり}の乾きしひとところ

ラグビーの子等のこれほど絵になるか

ひざまづく胸の真向ひ冬薔薇

衛兵のごとく黙する寒鴉

目のいろの異なるひとと冬茜

呼び鈴の凍てつくほどに星遠し

漸瀝や禍の深淵のうすごほり